

科目名	健康生活看護学(成人・回復終末期)			ナンバリング	PEN244	授業形態	演習
対象学年	2年	開講時期	後期後半	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	狩谷恭子	担当教員	樺山定美、○狩谷恭子				

授業の概要	成人期にある人の健康課題として、病気の回復期および終末期にある人の病態生理について、人体の構造と機能に基づいてとらえらるとともに、それらに特徴的な治療方法および看護援助技術について学修する。特に、終末期医療に関する知識を得ることで、終末期にある人とその必要な看護について理解を深める。また、特定の診療科で用いられる最新の診療技術や看護援助技術についても学修する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 障がいを持ちリハビリテーションが必要な成人の特徴について、主要概念に基づき説明できる。 生活の再構築と疾病の経過(病期)におけるリハビリテーション看護の実践について説明できる。 終末期医療と緩和ケアの現状をふまえ、終末期がん患者が抱える全人的苦痛(トータルペイン)とQOLについて説明できる。 終末期により人生最後のときを過ごしている患者と家族の看護について説明できる。 急激な健康破綻または慢性的な健康の揺らぎのある人への看護について、状況設定課題により援助方法を習得する。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	予習(資料の閲覧)と復習(レポート作成)を、それぞれおおよそ90分の学習時間を確保して必ず行いましょう。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	○	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> リハビリテーションの対象者について述べるができる。 障がいを持ちながら生活する人のリハビリテーション看護について述べるができる。 緩和ケアの現状と終末期がん患者が抱える全人的苦痛(トータルペイン)について述べるができる。 終末期により人生最後のときを過ごしている患者と家族の看護について述べるができる。 急激な健康破綻または慢性的な健康の揺らぎのある人への看護について、状況設定課題により援助方法を述べるができる。 	<ol style="list-style-type: none"> リハビリテーションの対象者について、身体的・精神的・社会的特徴を述べるができる。 障がいを持ち生活の再構築が必要な人のリハビリテーション看護の実践について述べるができる。 緩和ケアの現状と終末期がん患者が抱える全人的苦痛(トータルペイン)がQOLに及ぼす影響について述べるができる。 終末期により人生最後のときを過ごしている患者と家族の看護について具体的事例を踏まえ述べるができる。 急激な健康破綻または慢性的な健康の揺らぎのある人への看護について、状況設定課題により援助を実践することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					90%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		10%
授業態度・授業への参加							
状況設定課題演習							

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 授業内レポートおよび試験の解答用紙は原則返却しない。レポートや試験に関する内容については、個別に指導を希望する学生には対応する。 期末試験の成績は学生からの希望があれば、期間を設けて開示する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	障がいがある人の生活とリハビリテーション	リハビリテーションの概念および歴史をふまえ、障がい者の権利や障がい者の生活を支える法律・サービスについて解説する	
	第2回	リハビリテーション各期における看護	生活の再構築について疾病の経過(病期)におけるリハビリテーション看護と、リハビリテーションに用いられる主要な概念について説明する	
	第3回	慢性関節リウマチ患者の看護/ 変形性膝関節症・変形性股関節症患者の看護	1. 慢性関節リウマチ発症患者の看護について、発症のメカニズムとともに説明する。 2. 変形性膝関節症・変形性股関節症患者の看護について、発症のメカニズムとともに説明する。	
	第4回	運動器障がい患者の看護(骨折)	1. 骨折の治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 大腿骨頸部骨折にて手術療法を行う患者の看護について説明する。	
	第5回	運動器障がい患者の看護(脳梗塞後遺症)	1. 脳梗塞後遺症のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 脳梗塞後遺症による生活の再構築のための支援と、障害受容と看護について説明する。	
	第6回	運動器障がい患者の看護(脊髄損傷)	1. 脊髄損傷のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 脊髄損傷による生活の再構築のための支援と、障害受容と看護について説明する。	
	第7回	造血器疾患を有する患者の看護	1. 造血器疾患のメカニズムおよびその治療法について人体の構造と機能および疾病論の知識に基づいて説明する。 2. 造血器疾患により化学療法を受ける患者の看護について説明する	
	第8回	人生最後のときを支える看護	終末期医療の現状をふまえ、人生最後のときを過ごしている人に対する看護について説明する	
	第9回	がん患者の看護	がん患者の看護について、がん対策基本法による取り組みについて説明する	
	第10回	がん末期により人生最後のときを過ごしている人への看護(1)	がん患者が抱える全人的苦痛(トータルペイン)とQOLについて、終末期がん患者の身体的症状と苦痛および精神的・社会的苦痛のアセスメントと看護について説明する	
	第11回	がん末期により人生最後のときを過ごしている人への看護(2)	終末期がん患者の死にゆく過程とスピリチュアルケアについて、また終末期がん患者と家族の反応に応じた看護について説明する	
	第12回	がん末期により人生最後のときを過ごしている人への看護(3)	終末期がん患者の事例をもとに、緩和ケアについて考察する。	
	第13回	がん末期により人生最後のときを過ごしている人への看護(4)	終末期がん患者の事例をもとに、緩和ケアについて考察する。	
	第14回	がん末期により人生最後のときを過ごしている人への看護(5)	終末期がん患者の事例をもとに、緩和ケアについて考察する。	
	第15回	まとめ	成人期にある人の健康課題として、病気の回復期および終末期にある人の看護について考察する	
		試験	全授業終了後に期末試験(筆記試験)を実施する。	
授業の進め方		講義・質疑応答による授業内容を理解し、課題や状況設定に基づく演習を行い、各授業毎の課題レポートを作成する。		
授業外学習の指示		復習のためのレポートと、当該授業の理解を促すための事前学習を提示する場合がある。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	1.奥宮暁子他:ナースングラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護、メディカ出版、2.廣町佐智子:ナースングラフィカ健康の回復と看護⑤ 3.宮下光令:ナースングラフィカ成人看護学⑥緩和ケア、メディカ出版
参考書	1.野崎真奈美他:看護学テキストNICE『成人看護学 成人看護技術』南江堂、 2.小松浩子他:『がん看護学』医学書院、3.鈴木志津枝・内布敦子編『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 第2版』
参考URLなど	なし
その他	